

集 会 ア ピ ー ル (案)

福島第一原発事故から1年がたちました。

地震と津波によって破壊された福島第一原発では、原子炉内部の状況も把握できず、事故は収束する見込みも立っていません。

広大な大地と海と大気が汚染され、私たちは、今後長きにわたり放射能汚染と対峙しなければならない現実を突きつけられました。

全国の原発54基のうち運転しているのは2基のみです。この春、泊原発3号機を最後に全国の原発が運転停止となり、原発がなくても電力が足りることが証明されるはずですが。

しかし、政府は、「安全評価（ストレステスト）」の「1次評価」が妥当であれば「再稼働」は可能としています。現在、原子力安全・保安院は、泊原発1,2号機の「1次評価」について審査を行っています。

また、保安院は、「安全評価」とは別に「耐震安全性評価」の再評価を北電に求めています。北電は、泊原発沖の複数の活断層が最大長さ164*₀にわたって連動するとして再評価することを明らかにしましたが、コンピューター解析のみで4月中にも終え「再稼働」に結びつけようとしています。

高橋知事も「泊原発についての考えを国が示した上での判断」として、「再稼働」をすすめたい政府にその判断を委ねています。

福島原発事故の原因究明もされず、安全性を確認しないままの「再稼働」は何としても止めなければなりません。

福島原発事故によって、日本の原発の「安全神話」は完全に崩壊し、これからの社会のあり方や自らの生き方を根底から問われることになりました。

私たちの命と暮らしを守るため、子どもたちの未来のために、今こそ、脱原発を実現し自然エネルギー中心の社会をめざさなければなりません。

泊原発1,2号機の再稼働を止めましょう！

子どもたちを放射能から守りましょう！

そして、

すべての原発をなくしましょう！ さようなら原発！

2012年3月24日

泊原発1,2号機の再稼働を許さない北海道集会INいわない